



地域包括ケア事例 病院と地域関係職種との連携 ～連携会議より～

地方独立行政病院 岐阜県立下呂温泉病院

地域連携室 高崎 美保

協力者 下呂市消防本部 救急対策監 熊崎直人

下呂市の状況

下呂市の人口 30,428人

	高齢者人口	
	人数	高齢化率
65歳以上	12352	40.7%
75歳以上	7065	23.3%

要介護者の人数							2021年3月
要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
217	264	641	387	310	308	186	2313

医療と介護と 福祉の事業所一覧

事業形態	施設数
病院（当院）	1
病院（市立）	1
病院（精神科）	1
有床診療所	3
開業医	13
訪問看護ステーション	2

	事業形態	数
介護保険事業所	訪問介護	8
	訪問入浴	3
	訪問看護	4
	通所介護	18
	通所リハビリ	2
	訪問リハビリ	2
	短期入所生活介護	7
	認知症対応型共同生活介護	6
	小規模多機能居宅介護	2
	認知症対応型通所介護	1
	地域密着型通所介護	10
	介護老人福祉施設	3
	介護老人保健施設	2
	介護療養型医療施設	1

地域連携会議

- 下呂市在宅介護連携推進事業
在宅医療・介護連携推進会会議（年3回）
- 下呂市『多職種連携による医療・介護の輪』会議（年3回）
- 下呂市居宅介護支援協議会 事例検討会（年2回）
- 連携会議（ケース会議）（随時）
- 下呂市消防本部との定例会議（月1回）

下呂市在宅介護連携推進事業

在宅医療・介護連携推進会議

目的 在宅医療 介護連携の
推進

対象者

医師、歯科医師、薬剤師、病院
居宅介護支援事業所、入所施設
医療、介護サービス事業所、
行政職員等の代表者
(ワーキングメンバー)



下呂市

『多職種連携による医療・介護の輪』会議

目的

- 地域包括ケアシステムにおける多職種連携の強化
- 顔の見える関係構築

対象者

医師、歯科医師、薬剤師、訪問
看護師、病院看護師、行政職員、
地域包括ケアセンター
介護支援専門員、介護職員、施設職員



令和4年 終活についての講演会

下呂市居宅介護支援協議会 会議

目的

各居宅介護支援事業所の円滑な運営、
ケアマネ ジャーの資質向上、関係職
種との連携体制の構築

令和4年 事例検討会 2事例

対象者

各居宅介護支援事業所の
ケアマネジャー
病院看護師



事例検討会テーマ

『透析治療を受けながら住み慣れた場所で
生活していくための連携・支援について』

連携会議 (ケース会議)

目的

生活者が直面する課題や困難な状況に対し、本人や家族、その関係者で共有しながら解決に必要な手立てを検討する

- ★ 医療依存度の高い児に関わる職種の連携会議
- ★ 高齢者虐待事例の検討など

対象者

医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、病院看護師、行政職員、地域包括ケアセンター 介護支援専門員、介護職員、施設職員など

下呂市消防本部との定例会議

目的

- ①救急業務が円滑に行われるために双方の情報を交換
共有し共通認識をもつ
- ②新たな制度改革の情報交換を行う

対象者

下呂市消防本部 2名 下呂温泉病院医事課 2名 外来師長

地方独立行政法人
岐阜県立下呂温泉病院

許可病床数:206床
外来診療科 18科
(診療科によっては非常勤医師対応)



岐阜市
岐阜大学附属病院
県総合医療センター

陸路 約2時間
空路 15分

高山市
高山赤十字病院
久美愛厚生病院
陸路 約1時間

美濃加茂市
中部国際医療センター
陸路 約1時間20分



事例紹介



●慢性疾患をもつ小児

背景：A大学病院を退院。（主治医は大学病院）退院後は、症状出現時の対応は、C病院へとA大学病院から診療情報提供書が送付されていた。

緊急時の対応については、当院とC病院の医師間で情報共有がなされ搬送先の相談がされていた。

予防接種などのかかりつけは開業医となっている。

慢性疾患をもつ小児

B病院 その症状でしたらC病院への搬送をお願いします。

A大学病院
情報提供の発信

A大学病院より情報提供書あり。

C病院

当院

A大学病院より情報提供書あり。

ファーストタッチはどこだろう？

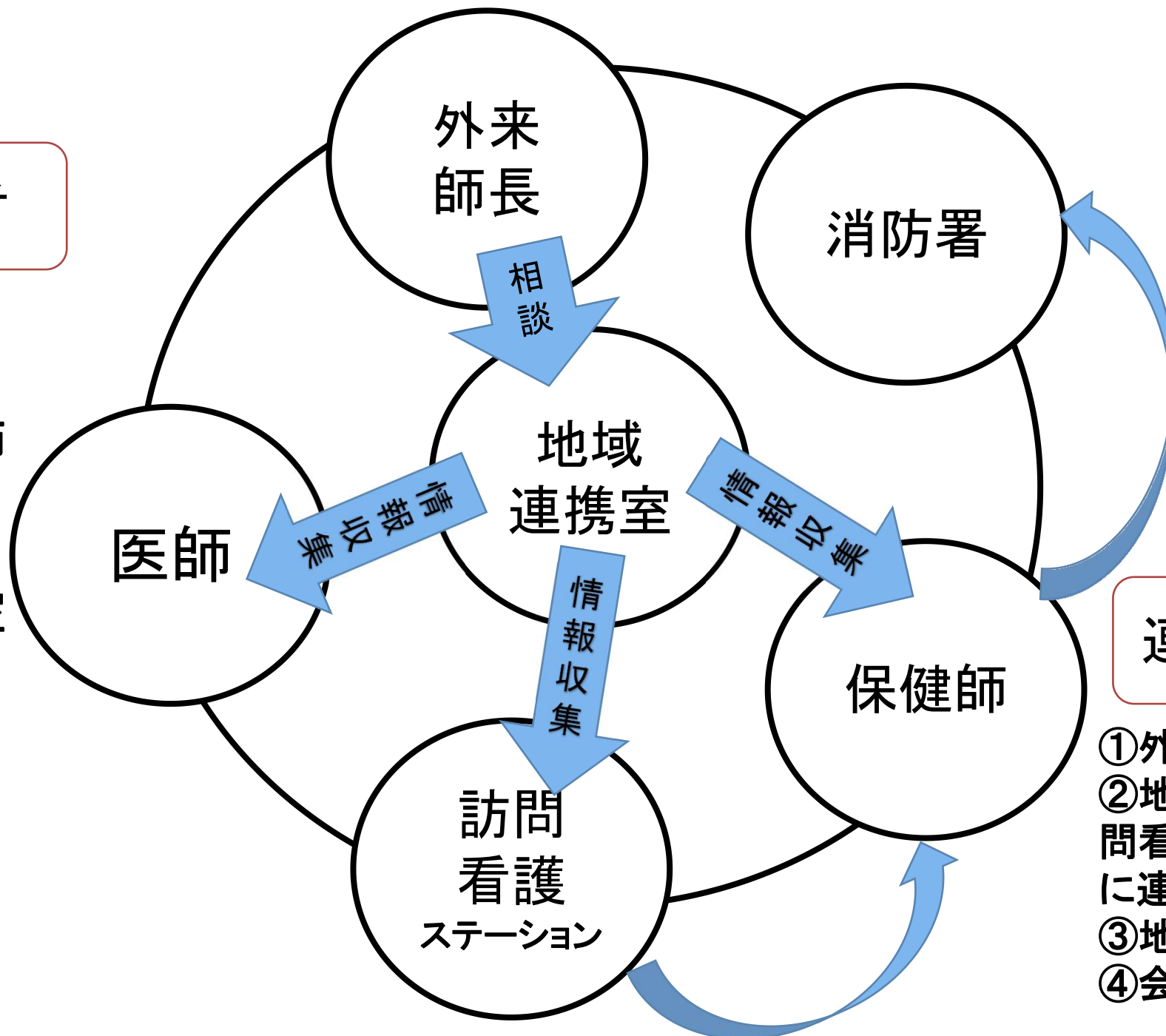
A大学病院より情報提供書あり。

消防本部との定例会

- ◎当院と消防本部が症状によって異なる搬送先の認識にずれがある
- ◎緊急時の搬送先についてご家族の理解の確認が必要

参加者

医師
外来師長
訪問看護師
消防職員
保健師
地域連携室



連携会議開催まで

- ①外来師長からの相談
- ②地域連携室から医師、訪問看護ステーション、保健師に連絡（現状把握）
- ③地域連携室が会議を決定
- ④会議の開催

会議の展開・内容

ケースの目的

救急搬送する際の対応について関係機関で情報共有し
共通認識した上で対応に当たれるようにする

- ① ケース概要；保健師より
- ② ケースの状況；訪問看護師 現在の症状について
往診状況（在宅医の関わりについて）
母親の障害受容 児への愛着について など
- ③ 緊急時の受け入れについて；下呂温泉病院小児科医師より
病態説明 救急搬送時の処置内容および方法
- ④ 下呂消防本部より 搬送に生じる問題、疑問など
- ⑤ その他；家族の病気、搬送先の認識について

地域包括ケア推進への参画

- 普段から地域の関係職種との顔の見える関係（語り合える関係）が、円滑な連携に影響する
- 医療（病院）からの情報発信・情報共有は地域包括ケアシステムのネットワークのひとつになる。

地域に住むすべての人々が、必要な支援を受けながら住み慣れた地域で生活し続けられる

今後の課題

地域との会議、個々の事例を積み重ね、地域の
人々、地域のニーズや課題を明確にする



地域包括ケアシステムの中で地域住民の生活
のために当院（医療）ができることを考えていく